

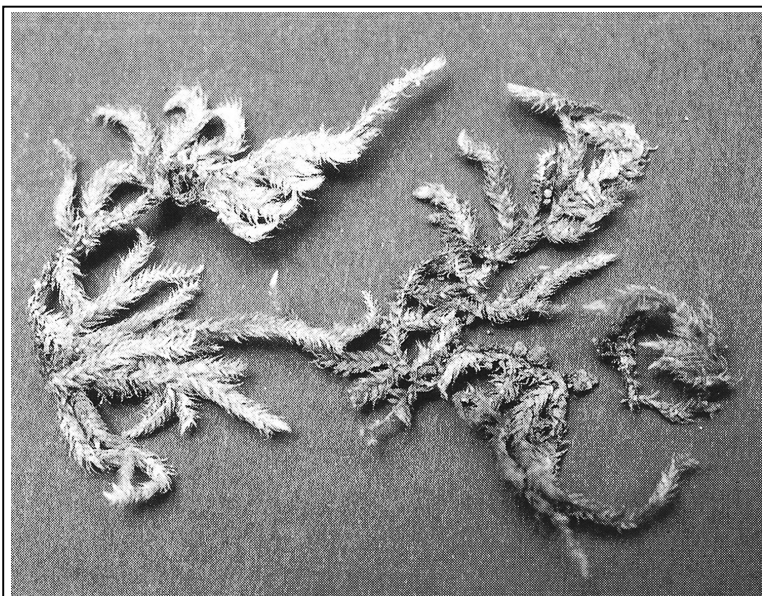
マツムラゴケ *Duthiella speciosissima* Broth. ex Card.

【評価理由】

愛知県内では北設楽郡、旧南設楽郡、旧東加茂郡にわたって、現在 10 ヶ所程の産地が知られている。愛知県の場合はさし当たって絶滅の心配はあまりないと考えられるが、県内での発見例も決して多くはない。

【形態】

茎が 15cm にも達する、大形で懸垂性の美しいセン類。湿り気のある岩崖に懸垂して生育する。葉の基部は卵形、先端は長くて屈曲する鋭尖部に漸尖する。葉縁に鋸歯があり、中肋は長くて葉頂下に達する。葉細胞には表面に一個の乳頭があるなど、葉に多くの特徴をもっている。



植物体。南設楽郡鳳来町、2000 年、高木典雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

北設楽郡、旧南設楽郡、旧東加茂郡にわたって、現在 10 ヶ所程の記録がある。

【国内の分布】

関東以南の本州、四国、九州に亘って分布する。

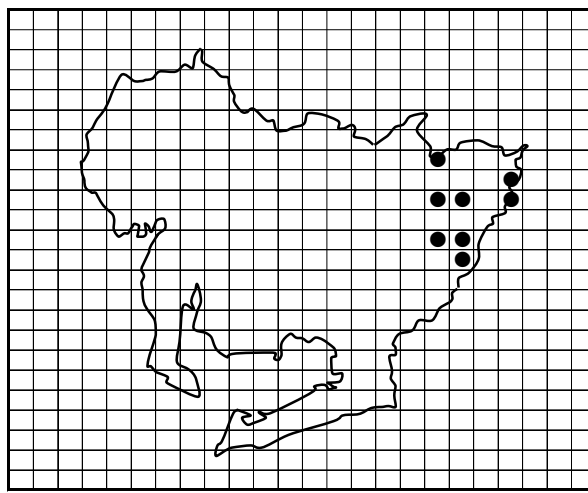
【世界の分布】

中国、台湾にも分布している。東アジア系の大陸要素の一種と考えられ、地理的分布の上で興味深い種である。

【生育地の環境／生態的特性】

林内半陰のやや湿った岩面や岩隙に垂下する。石灰岩地に限ったことはないが、石灰岩地でよく発見される。県内の約 10 ヶ所の既知の産地はすべて天竜奥三河国定公園と愛知高原国定公園内にある。

県内分布図



【現在の生育状況／減少の要因】

県内の既知の産地では、ダム建設のために水没した数ヶ所の例を除けば、他は現在も良好な生育を示している模様である。

【保全上の留意点】

愛知県内では奥三河地域に点々と広範囲に分布している。また、県内の約 10 ヶ所の既知の産地はすべて天竜奥三河国定公園と愛知高原国定公園内にあるため、直ちに絶滅する心配はないと思われる。

【特記事項】

中国、台湾にも分布する植物地理学的に興味深い種で、相互間の形態的な相異の有無、生育環境の相異の有無、遺伝子レベルでの関連の有無など、学術的にとりあげて吟味する価値のある種と考えられる。

【関連文献】

高木典雄、1996. 蘚類植物. 設楽町誌自然本文編, pp.346-368. 設楽町.